

雛人形

2013年2月23日-3月17日

三月三日は季節の節目である五節句の一つ、上巳の節句にあたります。この日は雛祭りともいわれ、雛人形をかざり女の子の成長を祈ります。雛飾りの風習は江戸時代、平安貴族の間でおこなわれた雛あそび、上巳の節句に行われたお祓いの儀式が結びついて行われるようになったといわれます。江戸時代の後期には、宮中の装束を写した「有職雛」、現代の雛人形に繋がる「古今雛」などが現れます今回の展観では雛祭りの季節にあわせて、京都の「丸平」大木平蔵、東京の永徳斎という東西の名匠による明治末～昭和初期に製作された雛人形を陳列いたします。

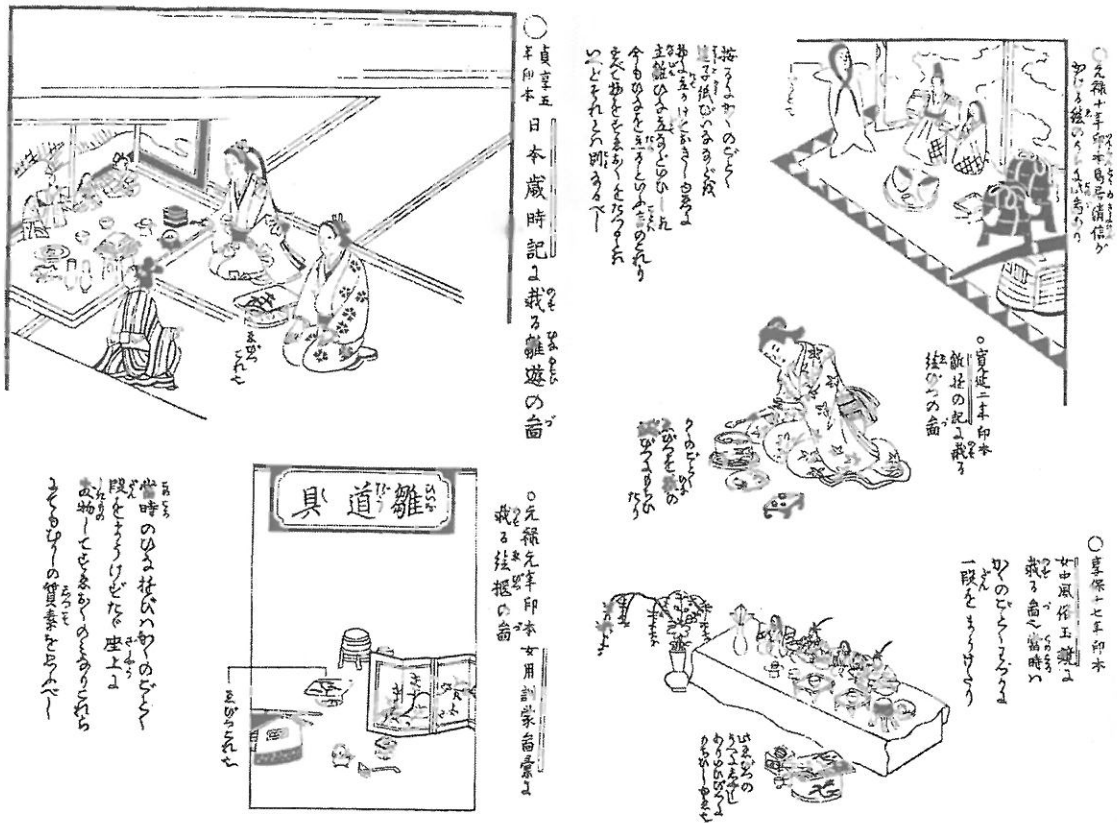


図 後期に山東京伝が記した随筆『骨董集』（文化11から12年刊の考証随筆。下巻に記された雛祭りに関する挿図。

京都・丸平と東京・永徳齋

京都の丸平大木人形店は、明和（1764-71）年間に創業。屋号は丸屋といい、代々大木平蔵を襲名する人形師。雛人形、五月人形、有職人形、御所人形をはじめとした京人形を制作、現在も各地の名家に納めています。この雛飾りは作風から、四世大木平蔵（1860-1939）により制作されたことがわかります。内裏雛は明治末期、三人官女・仕丁・隋臣は大正期、五人囃子は昭和初期の作です。

永徳齋は東京を代表する人形司です。初代永徳齋山川雄七は京都の御用人形司「御雛屋」岡田家の職場頭でしたが、岡田家の養子となり岡田永徳として御雛屋の十二代を継ぎ江戸店を預かりました。しかし明治維新後に養子縁組を解消し、山川永徳齋として日本橋十二軒に人形店「永徳齋」を開きます。初代の長男である二代永徳齋山川慶次郎（1858-1927）は名工として知られ、明治41年（1908）、五十歳で永徳齋を名乗ります。三代永徳齋山川保次郎（1865-1941）は初代の次男で、長らくアメリカで博物館に展示する人形の制作にあたっていましたが、帰国後三代を継ぎました。四代目となると目されたのは二代の六男で昭和初年からマネキン人形の制作にたずさわり三代永徳齋とともに永徳齋の経営を担います。しかし結局四代襲名はなく、人形司永徳齋は昭和28年に閉店しました。

展示リスト

□丸平の雛人形

男雛・女雛 三人官女 隨身（ずいしん）五人囃子（ごにんばやし）仕丁（しちょう）

□二代永徳齋の雛人形

男雛・女雛 三人官女 隨身（ずいしん）五人囃子（ごにんばやし）仕丁（しちょう）

□三代永徳齋の雛人形

男雛・女雛 三人官女 隨身（ずいしん）五人囃子（ごにんばやし）仕丁（しちょう）
各種雛道具

※カザールコレクションから江戸時代の蒔絵雛道具を展示しております。

□雪輪紋懸盤・椀類

□九曜紋蒔絵雛道具

□葵紋梅唐草蒔絵行厨

□唐草蒔絵硯箱